

平成 20 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告

I. 実施項目

1. 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、個体数調整を実施した。
また、新規捕獲手法の検討を行った。

2. 植生保全対策

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、区域保全対策、単木保護対策を実施した。

3. 生息環境の整備

大台ヶ原周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関間の情報共有を目的に「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催した。

4. モニタリング調査

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、ニホンジカの生息状況や植生への影響について調査を行った。

II. 部会等の開催状況

年	月日	会議
平成 20 年	6 月 1 日～2 日	現地検討WG（森林生態系部会と合同）
	6 月 11 日	現地検討（西大台防鹿柵の設置現場打合せ）
	9 月 9 日	第 1 回個体数調整WG
	10 月 8 日	第 1 回ニホンジカ保護管理部会
	12 月 11 日	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議
平成 21 年	12 月 19 日	第 2 回ニホンジカ保護管理部会
	1 月 30 日	第 1 回評価委員会
	2 月 17 日	第 2 回個体数調整WG
	3 月 13 日	第 3 回ニホンジカ保護管理部会
	3 月 25 日	第 2 回評価委員会

《防鹿柵等整備の基本方針》

(1) 区域保全対策（防鹿柵）

①**実施場所**:減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した設置場所を選定。環境、植生、地形、両生類の産卵場所を考慮するとともに、シカの被食からの保護の緊急性、歩道等からの景観への配慮、設置コストなどを総合的に判断し、まとまった範囲で設置する。

(2) 単木保護対策（ラス巻き）

①**実施場所**:シカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、平成19年度に引き続き、中道周辺域・尾鷲辻まで実施。

②**実施対象**:母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種
(トウヒ・ウラジロモミ・コマツガ・リョウブ・アオガモ・マンサク・ナカマツ等)

③**優先順位**:ラス巻き実施から年月が経過している場所（要補修カ所）

区域保全対策が実施されておらず（未実施場所）、シカの剥皮害が大きな場所（風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの食害が多い場所）

3. 生息環境の整備

大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議を開催し、関係機関が持っているニホンジカ保護管理に関する情報交換を行うとともに、今後の連携の在り方等について検討を行った。

【構成機関】

近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、上北山村、川上村、大台町、紀北町

【事務局】

近畿地方環境事務所

4. モニタリング調査

(1) 生息密度調査

糞粒法及びルートセンサスにより生息密度指標の把握を行った。

(2) 捕獲個体調査

個体数調整により捕獲した個体の、外部計測を行うとともに栄養状態、妊娠の有無について分析を行った。

(3) 行動圏調査

西大台で4個体にGPS発信機を装着した。（データ一部未回収）

(4) 植生への影響調査

16箇所において下層植生への影響の状況を調査した。

5. 大台ヶ原自然再生推進計画の見直し

平成17年1月に策定した大台ヶ原自然再生推進計画による取組の実施状況等の評価を踏まえ、大台ヶ原における自然再生の基本的考え方、自然再生の目標、平成21年度からの5ヶ年程度の取組等について取りまとめた「大台ヶ原自然再生推進計画―第2期―」を作成した。